

第24回

国際開発研究大来賞

OKITA Memorial Prize for International Development Research

一般財団法人 国際開発機構 FASiD

「国際開発研究 大来賞」は、多様化する国際開発のニーズに対応し新たな指針を提示する研究を奨励するため、当財団の初代評議員会会長を務められた元外務大臣 大来佐武郎氏を記念して、1997年に創設されました。

第24回(2020年度)の受賞作品が下記の通り決定しましたのでご紹介します。



谷口 美代子 著

『平和構築を支援するーミンダナオ紛争と和平への道』

(名古屋大学出版会) 2020年

これまでの受賞作品

- 第1回 廣瀬昌平・若月利之編著 『西アフリカ・サバンナの生態環境の修復と農村の再生』 農林統計協会 1997年
- 原 洋之介著 『開発経済論』 岩波書店 1996年
- 第2回 絵所秀紀著 『開発の政治経済学』 日本評論社 1997年
- 深川由起子著 『韓国・先進国経済論ー成熟過程のミクロ分析ー』 日本経済新聞社 1997年
- 第3回 中兼和津次著 『中国経済発展論』 有斐閣 1999年
- 辻村英之著 『南部アフリカの農村協同組合ー構造調整政策下における役割と育成ー』 日本経済評論社 1999年
- 第4回 峯 陽一著 『現代アフリカと開発経済学 市場経済の荒波のなかで』 日本評論社 1999年
- 第5回 黒崎 卓著 『開発のミクロ経済学』 岩波書店 2001年
- 西川 潤著 『人間のための経済学ー開発と貧困を考える』 岩波書店 2001年
- 第6回 石井正子著 『女性が語るフィリピンのムスリム社会』 明石書店 2002年
- 脇村孝平著 『飢饉・疫病・植民地統治ー開発の中の英領インド』 名古屋大学出版会 2002年
- 第7回 平野克己著 『図説アフリカ経済』 日本評論社 2002年
- 第8回 石井菜穂子著 『長期経済発展の実証分析』 日本経済新聞社 2003年
- 安原 毅著 『メキシコ経済の金融不安定性』 新評論 2003年
- 第9回 藤田幸一著 『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動: 貧困削減のための基礎研究』 京都大学学術出版会 2005年
- 第10回 谷 正和著 『村の暮らしと砒素汚染ーバングラデシュの農村から』 九州大学出版会 2005年
- 第11回 湖中真哉著 『牧畜二重経済の人類学ーケニア・サンプルの民族誌的研究』 世界思想社 2006年
- 第12回 牧田りえ著 『Livelihood Diversification and Landlessness in Rural Bangladesh』 The University Press Limited 2007年
- 第13回 武内進一著 『現代アフリカの紛争と国家ーポストコロナル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』 明石書店 2009年
- 第14回 田辺明生著 『カーストと平等性ーインド社会の歴史人類学』 東京大学出版会 2010年
- 第15回 該当作なし
- 第16回 佐藤百合著 『経済大国インドネシアー21世紀の成長条件』 中央公論新社 2011年
- 第17回 森 壮也・山形辰史著 『障害と開発の実証分析ー社会モデルの観点から』 勁草書房 2013年
- 山尾 大著 『紛争と国家建設ー戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』 明石書店 2013年
- 第18回 柳澤 悠著 『現代インド経済ー発展の淵源・軌跡・展望』 名古屋大学出版会 2014年
- 第19回 古川光明著 『国際援助システムとアフリカーポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える』 日本評論社 2014年
- 第20回 宮城大蔵編著 『戦後日本のアジア外交』 ミネルヴァ書房 2015年
- 第21回 田中由美子著 『「近代化」は女性の地位をどう変えたかータンザニア農村のジェンダーと土地権をめぐる変遷』 新評論 2016年
- 佐藤 仁著 『野蛮から生存の開発論ー越境する援助のデザイン』 ミネルヴァ書房 2016年
- 第22回 堀江未央著 『娘たちのいない村ーヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』 京都大学学術出版会 2018年
- 第23回 友松夕香著 『サバンナのジェンダーー西アフリカ農村経済の民族誌』 明石書店 2019年

審査委員選評

本書は、フィリピンのミンダナオ紛争を、国家、イスラーム系反政府武装勢力に、地元ムスリム有力氏族(クラン)を加えた三者間の相互関係として捉え、歴史的視点で分析した力作である。ミンダナオ紛争は、その和平プロセスに日本が深く関与し、人びとが尊厳をもって安心・安全に暮らせる社会を目指す「人間の安全保障」の考え方が現場レベルで実践されてきた、平和構築の代表事例のひとつといえる。しかし、長期化し複雑化した紛争の全貌を把握した上で、適切な外部支援を行うことは容易ではない。筆者は、ミンダナオ島南西部で平和構築関連の事業に従事する中で、様々な疑問にぶつかり、「この地域における問題を歴史的視点からより深く理解し、人びとにとってより効果的な協力を行うための一助になれば」と思い立ち、学術研究を開始する。

本書は、膨大な文献レビューをもとに、前イスラーム期にまで遡り、ミンダナオの社会構造や統治制度とその実情の変遷を明らかにするとともに、反政府武装勢力の生起・発展や、その後の和平プロセスと平和構築の取組みを丹念にたどっている。中でも筆者は、国家、クラン、反政府武装勢力の競合・協調関係に焦点を当て、国家が統治のために有力クランとの利害関係を深め、クラン間抗争と暴力を助長する一方で、一部のクランは反政府武装勢力の母体となっているという複雑な実相を明らかにしている。ミンダナオ紛争をめぐる和平プロセスは、2018年にバンサモロ基本法が成立し、2019年にはバンサモロ自治地域・暫定自治政府が設立されるという大きな転機を迎えた。筆者は、町レベルでの平和構築の実践成功事例の分析結果も踏まえて、2022年のバンサモロ地域政府設立に向けた課題として、多民族を包摂する公共空間の創出や平和の文化を定着させることの重要性を指摘している。

本書は、ミンダナオ紛争を理解する一助となると共に、他の地域の紛争を理解する上でも有益な視点や示唆を提供している。時宜を得た出版であり、大来賞にふさわしい作品である。筆者が、今後、実践と研究を融合させ、更なる飛躍を遂げられることを期待したい。(北野尚宏)

受賞者の言葉

この度は、国際開発で多大な功績を残された大来佐武郎氏を称え、その発展を目的とした学術賞を賜われることになり、深い感銘を受けております。そして、コロナ禍にあって厳しい状況の中、選考くださった審査員の先生方、並びにこの研究を支えてくださった皆様、そして名古屋大学出版会の編集者の方々々に心よりお礼と感謝を申し上げます。

本書は、冷戦後に優勢だったリベラル平和構築論に基づくその活動が、なぜ失敗に終わるのかを、ミンダナオの事例を基に現地社会の視点から解き明かしたものです。その特徴は、開発現場から生まれた多くの疑問(謎)を手掛かりに、長期間にわたる現地調査と文献調査を基に分離独立紛争とその陰に隠れた実態を明らかにし、現地社会の視点をふまえた平和構築のあり方を提起したことにあります。

その中心的な疑問とは、「なぜ、国家からの分離独立を希求する(ムスリムを中心とした自己規定による)「モロ」の民族同士が、日常的に殺しあっているのか」というものです。このような矛盾した事象が重なり合うことは、世界各地での紛争影響地域でよく観察される現象です。そこで痛感したのは、この問題が、「国家対反政府武装勢力」という単純な対立構造だけでは説明しきれないということでした。そこで、「実務者として、無自覚のうちに、特定の有力者の権力を拡大したり、社会的緊張感を高めたりしていないのか。新たな紛争の火種になっていないのか」という道義的責任を痛感し、実務に役立てるために学術研究を開始しました。

当初、現地調査は治安の制約や現地社会の排他性・政治性などにより、想定した以上に難航しました。多層的な政治秩序が交差する紛争影響地域では、人びとは身を守るために本音を語ることは少なく、国軍(私服)の護衛をつけた開発支援の一環としての聞き取り調査にはおのずと限界があります。そこで、一学生として現地の研究所に所属し、護衛なしで現地調査を開始しました。その多くは形式的なものでなく、人々との日常的なかかわりの中で得られたものです。こうして事実を積み上げ、それらを多面的・多層的に検証することによって、徐々に人々の心情や論理、矛盾する事象を理解することができるようになりました。

本書の前半はこの地域の統治の歴史を長期的な国家形成過程として詳述しています。それは、世界各地で発生する民族紛争が植民地以前の基層社会の政治秩序と支配形態、植民地期の支配形態と民族主義運動、独立後の政府の政策などが複雑に絡み合っているためです。こうして歴史的変遷をたどることで、これまで十分に説明されてこなかった分離独立紛争とクラン間抗争との関係、さらには国家とクランとイスラーム系反政府勢力の関係と紛争の構造的要因を解明しました。

このような可視化されにくい人的・社会的ネットワークに依拠した慣習的な政治実態に着目して紛争・暴力・平和を論じるという視角は、ミンダナオだけでなく脱植民地国家で発生する紛争や暴力の構造的要因を理解するのに有用です。また、このことは、実務者(外部者)が効果的な平和構築支援を行うだけでなく、無自覚に地域社会に負の影響を与えないためにも重要です。

今回の本賞受賞は、研究と実務を架橋することの重要性を改めて提起いただくものと受け止めております。こうした地道な研究に光を当ててくださいました選考委員の皆様方に改めて感謝の意を表します。大来賞の名に恥じぬよう、今後より一層精進して参ります。

谷口 美代子



たにぐちみよこ

広島県出身。東京大学大学院総合文化研究所博士課程修了。博士(国際貢献)。1990年代後半より、開発援助・研究機関での実務と研究を経て、現在、(独)国際協力機構にて国際協力専門員(平和構築)。アジア太平洋研究賞(井植記念賞)、第32回アジア・太平洋賞特別賞、国際開発学会奨励賞を受賞。

主要著書

“Rethinking ‘Liberal Peacebuilding’: Conflict, Violence, and Peace in Mindanao.” *Social Transformations: Journal of the Global South*, 7 (1) 2020. “JICA’s Assistance for the forcibly Displaced in Conflict-Affected Countries in Middle East,” (eds) Dunar, Merthan, *Exchange of Experiences for the Future: Japanese and Turkish Humanitarian Aid & Support Activities in Conflict Zone*, Ankara University Asia-Pacific Research Center, (2018). “From Rebels to Rulers: The Challenges of the Bangsamoro Government in Mindanao.” *The Diplomat* (2020) など。

第24回 応募作品の傾向と選考経緯

2019年4月から2020年3月までに出版された国際開発分野における課題を主たるテーマとした日本語の研究図書を対象として公募したところ、37作品の推薦・応募があった。

本年度は対象地域としては一国のみでなく、複数の国/地域を取扱う著作が増加し、半数以上あった。アジア地域を取扱う作品は引続き多く13作であった。中東5作、欧州・中南米各3～4作、アフリカ地域は減じて2作、北極域についても1作あった。

FASID国際開発研究センターにおいて予備審査を行い、受賞作品に加えて下記4作が最終審査対象として選出された。審査者からは「今期は国際情勢を反映して、紛争・平和構築・難民等「平和」をテーマとした作品が多く見られた。しかもこれらのテーマに対して、国際政治という視点だけではなく、文化人類学・社会学・経済学・法学等多様な専門分野からのアプローチが見られ、作品群はバラエティーに富んでおり、かつ内容的にも大来賞にふさわしいと思われる優れた作品が多かった」と総評が出された。審査過程における委員による意見はおおよそ以下のとおりである。(書名五十音順)

『戦争と平和の経済思想』(小峯 敦編著、晃洋書房)

さまざまな経済学説・思想を「戦争と平和」という観点から検討したもので、今後の研究進展に向けての一步となる。経済学史の観点からみると、一つのあたらしい切り口を提供している。本著に触発され、さらに実践的な貢献の可能性を探る研究ができるかもしれない。

『試される正義の秤－南アジアの開発と司法』(佐藤 創著、名古屋大学出版会)

インド特有の歴史・社会事情から生まれた公益訴訟に焦点をあて、開発政策の司法化という観点で考察した意義は大きい。先進国における公益訴訟との違い等、国情や発展段階によって司法が果たす役割が異なり得ることの理解は、開発関係者にとっても参考になる。

『中東諸国民の国際秩序観－世論調査による国際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析』

(浜中 新吾・青山 弘之・高岡 豊編著、晃洋書房)

長期間にわたって中東6か国の人々の政治意識(国家観)をフォローし続け、計量政治学的手法によってそれを描き出したことには学術的意義がある。斬新なテーマであり、人々の関心を引くだけでなく政策担当者にとっても有用な作品。

『武器貿易条約－人間・国家主権・武器移転規制』(榎本 珠良著、晃洋書房)

国際開発実務者が武器貿易と、今日の国際開発で重要な概念「人間の安全保障」を結び付けて論じた意義は大きい。本著は今期受賞作品のように、実務に従事しながら培った問題意識を研究へと発展させており、こうしたマインドを持つ研究者が増えることを期待する。

次の著書も参考になりますので併せてご案内します。

『フィリピン・ミンダナオ平和と開発－信頼がつなぐ平和の道程』(落合直之著、佐伯印刷)

【第24回(2020年度)審査委員会】

- 委員長 杉下 恒夫 (FASID 理事長)
- 委員 絵所 秀紀 (法政大学 名誉教授)
- 大野 泉 (政策研究大学院 大学教授)
- 北野 尚宏 (早稲田大学理工学術院国際理工学センター教授)
- 滝澤 三郎 (認定NPO法人国連UNHCR協会 特別顧問、東洋英和女学院大学 名誉教授)
- 藤田 伸子 (FASID 専務理事)

表彰式・記念講演会

ご案内(Zoomによるオンライン配信)

2021年1月13日(水) 10:00~12:00

国家形成過程として「平和構築」を考える

ミンダナオの紛争・暴力・平和の事例から何を学ぶのか?

谷口 美代子

なぜ、リベラル平和構築論に基軸した平和構築活動が失敗に終わるのか?

現在、世界各地で発生している紛争・暴力は、新型コロナウイルス感染症パンデミックもあいまってさらに混迷を深めています。本講演では、歴史的経緯を踏まえ、分離独立紛争とその陰に隠れた実態を明らかにし、現地社会の視点から平和構築のあり方を提起した、著書『平和構築を支援する－ミンダナオ紛争と平和への道』をもとに、ミンダナオと平和の行方とともに、今後の平和構築に関する研究や実務への知の応用を考えます。

くわしくは https://www.fasid.or.jp/okita_memorial_prize/3_index_detail.php

参加無料・要申込み 上記URL内オンラインフォームよりお申込みください

締切り: 2021年1月8日(金) 定員: 60名程(定員に達した時点で受付を終了します)

お問合せ: FASID国際開発研究センター 大来賞事務局(服部/朝戸) email: okita@fasid.or.jp / Tel: 03-6809-1997

国際開発研究 大来賞

OKITA Memorial Prize for International Development Research

受賞候補作品 募集のご案内

「国際開発研究 大来賞」は、国際開発の分野における研究奨励と促進、良書の発掘に資するため、国際開発の様々な課題に関する優れた指針を示す研究図書を顕彰するものです。

第25回(2021年度)についても、みなさまからのご推薦・ご応募をお待ちしております。

対象となる作品

- (1) 開発援助を含む国際開発の分野における課題を主たるテーマとする日本語の研究図書(翻訳、随筆、エッセイ、体験記、自伝、紀行文、事業報告書等を除く)であって、国際開発の実践活動の向上に資するもののうち、特に斬新性、普及性の点で顕著な業績、貢献が認められるもの。
- (2) 個人又は団体が編者あるいは著作者の場合は、個人の執筆者名が明記されているもの。
- (3) 2020年4月1日から2021年3月31日までの間に、初版が国内で市販されたもの。

大来 佐武郎(おおきた さぶろう)氏

1914年旧満州大連市に生まれる。1937年東京帝国大学工学部卒業、逓信省入省。戦後は経済安定本部、経済企画庁においてエコノミストとして活躍。1963年に同庁総合開発局長退官、1964年日本経済研究センター理事長就任、南北問題や開発援助分野で活躍。国際開発計画委員会(ティンバーゲン委員会・ピアソン委員会)の委員や『成長の限界』を刊行したローマクラブのメンバーを務める。1971年国際開発センター理事長、1973年海外経済協力基金総裁などを歴任し、1979年の大平政権において外務大臣を務める(～80年)。その後も国際大学学長、対外経済問題諮問委員会座長、FASID初代評議員会会長、国際開発学会会長等、国際開発分野で数多くの足跡を残す。1993年逝去。

審査・表彰

表彰 審査委員会で選考された作品に対し、正賞(楯)と副賞(50万円)を贈呈します。

審査 当財団国際開発研究センターによる予備審査を経て、審査委員会が行ないます。

推薦・応募

推薦者(自薦・他薦可)は、所定の「推薦書」へ入力し、email添付にて送信とともに、当該図書2冊を添えて応募・推薦してください。なお、推薦書類・当該図書は返却しませんのであらかじめご了承ください。

推薦書 ダウンロードしてください。

https://www.fasid.or.jp/okita_memorial_prize/2_index_detail.php

締切 2021年5月末頃

受賞作品の発表と表彰式

2021年11月に推薦者へ通知、発表し、表彰式を行います。(予定)

推薦・お問合せ先

一般財団法人 国際開発機構

国際開発研究大来賞 事務局(服部)

TEL: 03-6809-1997 / email: okita@fasid.or.jp

本事業には公益財団法人 三井住友銀行国際協力財団による助成を受けています。

一般財団法人 国際開発機構

国際開発研究センター

国際開発研究 大来賞 事務局(服部)

〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル6階

Foundation for Advanced Studies on International Development

email:okita@fasid.or.jp TEL:03-6809-1997 FAX:03-6809-1387 <http://www.fasid.or.jp>